



# こんな時間を —クラブ



みなさん、こんにちは。こちらはレクリエーションクラブです。われわれのクラブでは、男子九名、女子一名で構成されています。

主な活動内容は、ドライブです。学院の車両を使います。仲が良い人達どうして、二台の車に乗りこみ、学院を出発します。ドライバーによって、海の見える道を走つたり、またても景色の良い山の道を走つたりします。なるべく渋滞していない道を選んでいますので、時々は車の中でいりもしています。楽しく時間通りたいと思います。

(青野昭裕)

## レクリエーション

みなさんは、ここにちは。こちらはレクリエーションクラブです。われわれのクラブでは、男子九名、女子一名で構成されています。

主な活動内容は、ドライブです。学院の車両を使います。仲が良い人達どうして、二台の車に乗りこみ、学院を出発します。ドライバーによって、海の見える道を走つたり、またても景色の良い山の道を走つたりします。なるべく渋滞していない道を選んでいますので、時々は車の中でいりもしています。楽しく時間通りたいと思います。

(青野昭裕)

## エアロ ビクス

土曜のクラブ活動の中でひときわにぎやかなのがエアロビクスクラブです。

リズミカルな音楽と共に講師の志村先生の元気な声が階下までひびきわたる中、皆さん汗をかき乍ら参加しています。

リトミックやリズム体操と違い、ダンス感覚で体を動かすので、音楽の好きな人は皆自由な形で参加できます。

志村先生の動きを見て一生懸命エアロビクスをする人や、音に合わせてリズムを取りている人、志村先生が好き目の前にすとくついいている人、と様々です。

クラブに参加する職員も女性がほとんどなので、週一回健康の為にも頑張らなくつちやとはりきっている人もいるようです。

別にレオタードを着て参加するわけではなく、なんとなるが、皆の様子を見つめています。院生のみなさんが毎土曜日のエアロクラブに参加された事で、リズムにのって体を動かす。いつも院生のみなさんが毎土曜日のエアロクラブで楽しめたのです。しかし、院生のみなさんが毎土曜日のエアロクラブを作りを心がけていました。汗をかいた。STEPが出来た達成感などを感じていただけていたのなら、そんな

エアロビクスでもいいのではないかと思いつつ、体を動かしてしまった。汗をかいた。STEPが出来た達成感などを感じていただけていたのなら、そんな

院生のみなさん、エアロビクスを教えるようになり、もうすぐ七年。前講師の百々さんから引き継いでもうそんなにつたのだと感じてしましました。約二十名のクラブが好きな大村さん、いつもマジベースの小林さん、みんなのスマイル!もう最高の私の生徒さん達です。本当に運動の効果を考えると、しっかりと動かさなければなりません。反省してしまったのですが、花はいつ? そうですね、月に一度はお花を生ける。自分で生けた後講師・ボランティアの方に見てもらひ手直してもらお。瞬緊張感が走る。そして作品は玄関でお客様をむかえる。

このクラブのもう一つの楽しみ、「お茶」年に四回程あるがお茶をたて、季節のお菓子をいただく。きれいなお花とおいしいお菓子、心豊かなるクラブで

思いました。

(岡崎楚代)

## お茶・お花

七月のある土曜日、午前九時五十分、クラブ開始十分前にもかかわらず食堂にはお花クラブの方々ほぼ全員が集まつて来ています。「今日は何をするの?」

テーブルの上には小麦粉・油・水と洗面器が用意されており、食紅で色を付け各々創作活動に取りかかる。花びらをつくる人、顔をつくる人、丸める人、机にたたき付ける人粘土はやわらかく気持ちよい。あつという間に十一時、そろそろ後片付け、お茶を飲みながら本日の作品の出来を評価して、「来時は何?」「お花はいつ?」そうですね、月に一度はお花を生ける。自分で生けた後講師・ボランティアの方に見てもらひ手直してもらお。瞬緊張感が走る。そして作品は玄関でお客様をむかえる。

このクラブのもう一つの楽しみ、「お茶」年に四回程あるがお茶をたて、季節のお菓子をいただく。きれいなお花とおいしいお菓子、心豊かなるクラブで

思いました。

(岡崎楚代)

# 過ごしています の風景 —



(小林雪友)



(橋川富美恵)

土曜のクラブ活動の中でひときわにぎやかなのがエアロビクスクラブです。

志村先生の動きを見て一生

懸命エアロビクスをする人

や、音に合わせてリズムを

取りいている人、志村先生が好

き目の前にすとくついい

ている人、と様々です。

クラブに参加する職員も女

性がほとんどなので、週一回

健康の為にも頑張らなくつ

ちやとはりきっている人もい

るようです。

(大島典子)

めを感じ乍ら参加している私でした。

(大島典子)

でした。

(大島典子)

道

標



② 高齢者社会と福祉の普遍化がもたらすもの

社会福祉士 菊地 健吉

卷六 第22号 1997.11 / 隆行

16

卷 6 第22号 1997.11 / 78

福祉の普遍化は、私たち福祉関係者を重大な岐路に立たせつあります。この福祉現場に拡大していくでしょう。

合理的や効率性の追求という言葉は、これまで福祉の現場では、少し殺伐とした印象をもって論じられてきました。確かに、合理化や効率性の追求にじみにいくのが福祉の課題の特徴です。利用者の権利が侵害されたり、本当に求められているサービスが提供されなくなるような危険性を常にほらんでいると言わざるを得ません。しかし、サービスを利用するのが、自分にとって最も理にかなった効果的なサービスを提供して欲しいと思うことも当たり前のことです。多くの人々がサービスを利用する側に立つて、福祉を自らの問題として捉えなおさざるを得ない時代を迎えたとき、今まで見過ごされた方がちであったこの視点が再確認されているのです。

誰よりもサービスの利用者にとって、最も合理的に効率的にサービスが提供されると、このことを福祉に携わる私たちには今までに無く、シビアに肝に銘じなければならぬい時代を迎えようとしていま

近ごろ、日々の新聞に「高齢者」とか、「老人ホーム」といった文字を見かけない日はないほど、高齢化社会に間にわる話題が一般化してしまった。ずいぶん以前から、福祉社会は国が前例の無いスピードで高齢化していくことが、危機感を持って論じられてきました。しかしそれが、あまり福祉社会に関わりを持たないくらい大きな人々にとつても、重大な関心事として注目され始めたのです。そういう意味で、私たちは、高齢化社会を迎えると同時に、かつて無いほど福祉社会の普遍化の時代」を迎えております。それは、福祉が普遍化されるはどういう意味でしょうか、福祉に関わりを持つ私たちには何をもたらすのでしょうか。これは、実はすごく身近に、象徴的な例を見ることができます。

敷居といった段差が、低く、あるいは少なくなりつつあります。それは生活の欧米化によるものだけではありますまい。わずかな段差を解消することができると考へ方が急速に普及し、近年のデザインコンセプトの全面に押し出されましたのです。敷居だけではなく、持ちやすい扉の手すりや廊下や浴室の手すり、さらにはエレベーター付きの住宅まで、いわゆるバリアフリー・デザインと呼ばれるこの発想は、今や商品としての価値を持ち一般的な住宅展場でその具体策を目にすることができます。

しかし、ご存じのとおりバリアフリーの概念は、一九六〇年代障害者を中心に世界的な広がりをみせたもので、施設に隔離されるのではなく、一般社会で生活しやすいように、その物的障壁を取り除こうとする運動から生まれたものでした。日本でも、実は一九六六年も前に国際障害者年を契

知られる程度で、決して一般的に周知されていたとは言えないでしよう。ところが、高齢化社会の到来はそれを、これまでの福祉という世界だけの言葉としてではなく、ごく普通の住宅や、街づくりの設計概念として一般化しつつあります。つまり、バリアフリーを必要とするのは、どこかの誰かではなく、紛れもなく自分自身やごく身近なひとたとえば母親などーであると、以前に比べて多くの人々が実感するようになってきたことの現れであると言えるでしよう。このことが、福祉の普遍化の一側面です。これまでの福祉は、理念上は別として一般的には、残念ながら一部の限られた人々のためのものと捉えられてしまっていた部分は否めません。しかし、高齢化社会の到来は、単に第三者としての福祉利用者の増大を招くだけではなく、一般的に誰もがその利用者自身になりうるんだという当事者感覚の拡大という全く意味の異なる転換を招きます。それは、高齢者の福祉だけでなく、障害者に関する福社課題も含まれます。

うといったことなどが、多くの人々にとって以前に増して感じられるようになっているようです。これまで、福祉現場だけで論じられてきた特殊な課題、たとえば福祉の住宅・福祉的就労・介護・利用者の人権といった課題が、自分や自分の親の問題として一般的にも関心を持たれるようになります。

こうした普遍化の傾向は、私たち福祉に関わるものにとっては歓迎すべき傾向と言えるでしょう。だれもが暮らすやさしい社会はまさに福祉の理念が追い求めってきた社会です。私たちは、これまでの経験や培った知識技能を使つて、今までに無く広く社会に貢献ができるかも知れません。しかし、その一方で、私たちには大きな課題も投げかけられています。

つい、先日政府の行政改革委員会・規制緩和小委員会から、今後の規制緩和で重点的に取り上げる項目が、明らかにされました。土地、エネルギー、金融、福祉等九分野に亘り、及ぶ二十一の項目が示されま

を、企業にも認める方向で検討することが、クローズアップされ報道されたのです。一般化した福祉の課題を公的なサービス提供機関だけに拘泥せずに、企業も参入させようとする流れは、確かにその背景に、需要が増大に応じるだけの公的財源確保の限界という課題を見逃すことではありません。しかし競争性という市場原理の導入が、福祉にも求められるべきものでもあります。福祉の普遍化による競争という、より普遍化した手法によって、福祉サービスの質の確保を図るよう要請しているのです。

その最初の波をかぶることとなる老人福祉施設では、公的介護保険制度の導入を背景に、まさに現実の課題としてこのことを実感しています。保険制度によってどの程度、利用者による自由選択が実現されるかは疑問が残りますが、契約によるサービスの購入という形態は、これまでの措置制度の中では、それほど意識しないで済ませられてきた、あるいは、取り組んでいたが、契約によるサービスも報いられることの少なかつて

いる信じていても、当の利用者やその関係者に評価されなければ、それは単なる自己満足でしかないんだという、厳しいスタンスで、多くの老人福祉施設が自己改革に取り組んでいます。そうした社会的要請に乗り遅れた施設は、いずれは淘汰されるであろうという実感を、実際に老人ホームで援助業務にあたる多くの親爺さんたちが感じています。複雜なケアプランの策定手法導入の取り組みから、会議の持ち方といった情報伝達のシステム改善に至るまで、多岐にわたる業務改善、再構築への取り組みが急速に行われています。当然、「一層の人権への配慮」情報の公開といったサービスの質そのものの向上への取り組みも、精力的に行われています。また、サービスの利用者からある程度評価を得たとしても、それをこれからサービスを利用しようとする人々や、一般の人々に広く知つてもらうということも重要な業務であると考えられています。こうした一般社会の要請は、老人福祉施設に向かわれるだけですむ

# 家族penリレー 素心学院との 出会い

授産二班  
佐々木眞佐子

## サークル紹介

パソコンサークル誕生

技術の...」というのかなかなか難しいものです。なにせ、

サークルの将来像

ホームページ開設

・パソコンという趣味を通じて友好と親睦を深める  
・インターネットなどのパソコンを通じて各人の視野を広げ技術の向上に…。  
というものでした。

# Psocon Circle "e-gle" home page

[www.asahi-net.or.jp/QX6H-SGN/e-gleindex.html](http://www.asahi-net.or.jp/QX6H-SGN/e-gleindex.html)

/d